弘前城石垣修理

第８回～天守曳屋と石垣発掘調査～

本丸東側石垣の解体修理のため行われた弘前城天守の曳屋（ひきや）工事は、昨年 10 月 24 日の「着座式」をもって終了しました。現在は、４月１日からの天守内公開に向けて、補強工事や公開準備をしているところです。

本丸東側石垣では、今年度も発掘調査が行われました。調査範囲は天守台北側の 700㎡（70m × 10 m）で、調査３年目となります。

大きな調査成果としては、まず、明治～大正時代の石垣修理範囲が想定していたよりも広範囲であり、天守台の北側約 60 m地点にまで及んでいることを確認しました。石垣の積み方観察では、明治時代以降の修理範囲は天守台から北に 40 m付近までと考えられていましたが、今年度の発掘調査で、天守台から北に 55 m付近の掘削を進めたところ、深さ約 250㎝（石垣の上から６石目に相当）から、明治時代以降のガラス瓶の破片や陶磁器が出土しています。石垣背面の盛土から明治時代以降のものが出土する事実は、新しい時期に石垣が積み直されたことの証拠になります。

また、調査範囲北端の黒土には、「版築（はんちく）」と呼ばれる丁寧な盛土工事の痕跡を確認しました。この土からは、現段階で 17 世紀より古い時代のものだけが出土しており、この盛土が江戸時代の元禄年間に築かれた石垣を構成する可能性もあります。

発掘現場での作業

天守曳屋工事の傍らで、石垣の発掘調査も進めました。

職場体験

発掘調査中には、市内の中学・高校生の職場体験も行われ、真夏の厳しい暑さの中、皆さん若い力を発揮してくれました。

弘前城跡本丸石垣発掘調査委員会

弘前城跡は国の史跡であるため、専門家の指導も受けながら発掘調査を進めています。

現地説明会

昨年 11 月７日には、一般向けに調査成果の現地説明会を開催。120 人が参加しました。

▲明治～大正時代の石垣修理に伴う盛土…分厚い黄色い粘土と黒土が、交互に盛土されています。本丸から内濠へ土を流し入れたかのように、斜め方向に堆積しているのが特徴的です。

▲江戸時代のものと推定される盛土…発掘調査範囲の北端に良好に残っていました。こちらも茶色の土と黒土が交互に堆積していますが、厚さ 10 ～ 30cmほどの固く締まった層がほぼ水平に堆積しており、丁寧な印象を受けます。

※弘前城本丸石垣修理事業について、詳しくは下記 URL をご覧下さい。
http://www.city.hirosaki.aomori.jp/gaiyou/shisetsu/park/2015-0217-1629-48.html

■問い合わせ先　公園緑地課弘前城整備活用推進室（弘前公園緑の相談所内、☎ 33・8739）